



『希望の未来へ』 Y o s i

1月

- 1 水先勝
- 2 木友引
- 3 金先負
- 4 土仏滅
- 5 日大安
- 6 月赤口
- 7 火先勝
- 8 水友引
- 9 木先負
- 10 金仏滅
- 11 土大安
- 12 日赤口
- 13 月先勝
- 14 火友引
- 15 水先負
- 16 木仏滅
- 17 金大安
- 18 土赤口
- 19 日先勝
- 20 月友引
- 21 火先負
- 22 水仏滅
- 23 木大安
- 24 金赤口
- 25 土先勝
- 26 日友引
- 27 月先負
- 28 火仏滅
- 29 水先勝
- 30 木友引
- 31 金先負

2月

- 1 土仏滅
- 2 日大安
- 3 月赤口
- 4 火先勝
- 5 水友引
- 6 木先負
- 7 金仏滅
- 8 土大安
- 9 日赤口
- 10 月先勝
- 11 火友引
- 12 水先負
- 13 木仏滅
- 14 金大安
- 15 土赤口
- 16 日先勝
- 17 月友引
- 18 火先負
- 19 水仏滅
- 20 木大安
- 21 金赤口
- 22 土先勝
- 23 日友引
- 24 月先負
- 25 火仏滅
- 26 水大安
- 27 木赤口
- 28 金友引

3月

- 1 土先負
- 2 日仏滅
- 3 月大安
- 4 火赤口
- 5 水先勝
- 6 木友引
- 7 金先負
- 8 土仏滅
- 9 日大安
- 10 月赤口
- 11 火先勝
- 12 水友引
- 13 木先負
- 14 金仏滅
- 15 土大安
- 16 日赤口
- 17 月先勝
- 18 火友引
- 19 水先負
- 20 木仏滅
- 21 金大安
- 22 土赤口
- 23 日先勝
- 24 月友引
- 25 火先負
- 26 水仏滅
- 27 木大安
- 28 金友引
- 29 土先負
- 30 日仏滅
- 31 月大安

新春 インタビュー

聞き手 さわやからいふ顧問 黒田太郎

最高経営責任者 白川秀二

代表取締役社長 出口明美



黒田 皆さま明けましておめでとございます。今年 毎年恒例となりました、白

川代表と出口社長へのインタビューにて幕を開けたと思います。それでは早速ですが、出口社長、そして白川代表に昨年一年間を振り返っていただき、印象的な出来事などがあればお聞かせいただきたいと思います。

出口 印象的な出来事ですか。特にこれといって思い浮かぶことは無いですね。

黒田 あれ？思いがけず淡々としたお答えですね。確か昨年6月に御社は設立から満25年を経て、26年目に入る節目となる年だったと思うのですが。

白川 そうですね。出口社長の言う通り、何かこんな事件があった、こんなイベントを実施した、ということとは無かったですね。設立25年ということであれば、一昨年の6月21日、まさに当社の設立記念日に合わせて本を出版し、お陰様で好評でしたが、特別な記念行事のようなものは開催しませんでした。

黒田 なんだかお二人らしい感じがします。しかしそうだとすると、特に困ったことや悪かったことも無かったということでしょうか？

出口 細かい課題はまだまだ沢山ありますが、やはりあの新型コロナウイルス感染症の蔓延という、大きな大きな危機を皆で力を合わせて乗り越えたことで、恐怖感が無くなり、自信を持って明るく前向きに仕事に取り組む組んでいるのだと思います。

黒田 コロナの時期は、世の中全体で大変でしたが、特に介護業界は

大変だったと思います。これを乗り越えた今、収益面でも良い数字になっているのでしょうか？

出口 数字については、上を目指せばきりが無いとはいえ、そこそこ順調だったと思います。

黒田 大きな問題も無く、数字もまずまず、そのように聞くと恐らく体制面で安定感が出てきたということでしょうか？

出口 そう言っても良いと思います。白川代表の後押しもあり、社長の私が抱え



込んでいたことをかなり管理
者にお任せ出来るように
なったのです。私が現場ま
で出向いて実際に動くので
はなく、管理者から報告を
もらうことで、組織が回っ
ていくようになりました。

黒田 なるほど！組織とし
てあるべき姿に近づいてい
るといふ点で、大変素晴ら
しいことだと思っております
が、しかしこのことは、毎

年のインタビューで常に語
られていたような気もする
のです。何か昨年、組織が
変わるきっかけが有りまし
たか？

出口 これがあったからこ
う変わった、ということでは
ないと思います。白川代
表が社長だった時代から言
い続け、私が社長になって
からも言い続けたこと、つ
まりお客様のため、相手の
ため、という想いが浸透し
てきたのだと思うのです。
例えば、管理者から社長へ
の報告は、良い報告や社長

に文句を言われない報告を
することが目的なのではな
く、管理者が現場を見て、
問題点や改善点を把握し、
お客様のため、一緒に働く
仲間のために何が必要な
かを、社内で共有すること
が目的なのです。こうした
ことが、白川社長時代から
長い時間をかけて、皆さん
に伝わってきたのだと思
います。

黒田 組織が良い方向に変
化しているようですが、創
業者である白川代表は、ど
のようにご覧になっていま
すか？

白川 社内の雰囲気が良く
なってきましたね。風通
しが良くなってきたと言
えるでしょう。そして、さ
わやからいふがどのような
会社か、一緒に働く皆さん
にも伝わってきた結果、良
い人材は残り、腰掛け目的
の入社は減り、このことが
また風通しを良くしている
ように感じます。

黒田 素晴らしいですね！
それではお二人に、現状抱
えている課題と今後のさわ
やからいふについて語って
いただきたいです。

出口 課題といえば、人手
不足と介護報酬単価の引き
下げです。どちらも経営し
ていくうえで深刻ともいえ
る課題です。結果として何
が起きているかといえば、

経営には浮き沈みがあるの
ですが、何かの要因で沈ん
だとき、これまでは比較的
早くそれを取り戻すことが
出来たのですが、現在では

取り戻しに長い時間を要す
るのです。とはいえ、人手
不足はさわやかだけの問題
ではなく日本全体の問題で
あり、介護報酬単価の引き
下げもお国が決めたこと、

私たちはこれらを恨んでも
仕方がなく、前提として
やっていくよりほかはあり
ません。現有の力でもっと
出来るようにする、これが

今後のさわやからいふのあ

り方だと思っ
ています。幸
いなことに良
い人材が入り、
これまでの人材
も育っていま

す。さわやから
いふならやれる
と確信していま
す。

白川 まさに出
口社長が言う通
りで、それを実現するため
にも、これまでずっと課題

だった部署間のバラツキを
無くすことと、現場が管理
者中心に動いて出口社長が
経営に専念出来る体制が必

要なのです。私は代表とし
て、背後からこうしたさわ
やからいふの組織作りを支
えていきたいと思っていま

す。また、少し先を考える
と、私自身は会社オーナー
となり、出口社長には代表
になっていただき、新社長
を迎える継承も必要です。
私は同族経営をするつもり



はなく、一緒に働いてくだ
さった皆さまにこの会社を
お任せしたいのです。私が
さわやからいふという船を
出したとき、乗ってくだ

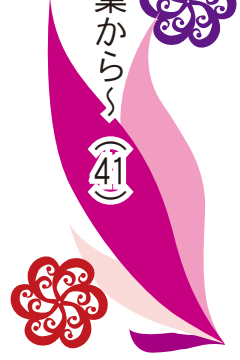
さった方がいたからこそ今
のさわやからいふがありま
す。そうした皆さまへ感謝
の気持ちを込めて、この会
社をお任せ出来たらと思っ
ています。

黒田 毎年のインタビュー
で、まさにアップデートし
ていく様子を見せていただ
き、本当に楽しいです。ご
協力有り難うございます。

問わず語り

く伝道ポスターの言葉からく

41



林河山 明泉寺住職 林川英昭

「問わず語り」とは、だれにも問われることなく自らが話をする事です。お寺の門前には伝道掲示板があり皆さんにメッセージを発信しています。少し足を止めてその言葉を自分なりに味わってみませんか。

「すべし」

お茶にご飯に

愚痴・不満

新年あけましておめでとうございます。今年はどうなるでしょうか。

今回の言葉は、福岡県のあるお寺の掲示板にあった言葉です。

昔は年齢を数え歳でカウントしていました。数えはお母さんのおなかの中におちを授かった時から年齢を数え始めます。生まれた時が1歳です。そして、月にみんな年齢を重ねてい



ました。例えば、2022年5月生まれの方は、20

25年1月では2歳のはずですが、数え歳の時代には5月の誕生日が来る前にもかかわらず3歳となります。

12月生まれでも3歳です。だから昔の人にとってお正月はみんな一斉に歳を重ね

る(とる)月でもあります。

ちなみに、私は1964年7月生まれですから、数えの61歳になりました。おめでたいです。本当にここまで生きてくることができて感謝です。その一方で「元旦や冥

土の旅の一里塚」で年寄りとなり、死へさらに近づいたということでもあります。その証拠に、私も口からお茶やご飯をたまにこぼすようになりました。口角が弱

くなったのです。個人差はあるのでしようが、確実に歳をとっています。

それとともに増えてきたのが愚痴や不満です。私は若い頃、歳をとれば人生経験を重ねて社会的な対処方法を知り、愚痴や不満が減ると思っていました。しかし、現実には反対で愚痴や不満は増えていくように感じます。周りの人はたまったものではないでしょう。

なぜ歳をとると愚痴が増えるのでしょうか。一つは自分の体が衰え、思うよう

に動かなくなると他人に頼

ることが増えるからだと思

います。しかし、他人には他人の都合があります。いつもいいことを聞いてくれるわけではありません。それどころか反対されることもあります。そうすると愚痴や不満が出ます。もう一つは愚痴が増えたことを自覚していいことが上げられません。抑制が効かないのです。

愚痴とは国語的には「言ってもしょうがない、解決しない不平や不満を言うこと」

ですが、本来の仏教の意味は「本当のことがわかっていない」という意味です。これを専門語で「無明(むみょう)」といいます。愚痴の「愚」はおろかな、「痴」はやまいだれに知るとありますから、なまじ知識だけをため込み自分中心にものを考え、他人の迷惑を考えない状態が愚痴です。愚痴が重なる

と次第に人は遠ざかるようになります。孤独になります。

仏教では、愚痴のほかに

貪欲(とんよく)なんでも欲しが(る)・瞋恚(しんにいかり)を含めて煩惱の三毒と言います。これには対処方法が説かれており、愚痴に対しては「縁起」を説くことが大切だと言います。

縁起とは簡単に言えばこの私は多くの縁で成り立っているということ。一人では生きていけないのです。愚痴が過ぎると一人になつてしまうのです。そのことを知らしめるために縁起を説くのです。縁起という言葉は一般的に「縁起が悪い」などと使いますが、これは間違いです。このことについてはまだ機会があります。たらお話ししたいと思います。

原因を知り、それに対処する、これが仏の道です。仏の道を歩むことは人との争い、孤立を避ける道でもあります。

参考文献：大神信章著

『学仏大慈悲心』(探究社)

スタートアップ

皆さまあけましておめでとうございます。さわやかにいふ顧問、愛知県議会議員の黒田太郎です。年始にどのような話題が良いか毎年悩みますが、今回はスタートアップを取り上げてみたいと思います。

い、この言葉を取り上げたのです。そしてもう一つ、この言葉を取り上げた理由があります。

ところで、スタートアップってなに？ここから始めますね。グーグル検索を試してみると、「革新的な技術やアイデアを基に、短期間で急成長を目指す企業やプロジェクト」と出てきました。「革新的」や「急成長」という言葉が印象的です。この令和7年が日本にとって、革新的で急成長に向かう年であることを願

い、この言葉を取り上げたのです。そしてもう一つ、この言葉を取り上げた理由があります。

昨年11月、鶴舞駅の近くに、愛知県が世界に誇るスタートアップ養成施設である「STATION AI」を完成させました。少しその宣伝もさせていただきます。ここには、起業して大きく成長することを夢見る企業家の卵から、それを支える投資家、それ的確な助言を与える専門家などが集っており、いずれはこの場所から、日本を牽引して世界に打って出る企業が育っていくことでしょう。私は、このような企業

が沢山生まれれていくことが、この日本に活気を与え、明るさをもたらすと思っておりますので、大村県知事からこの構想を聞いたときも大賛成でしたし、準備段階から高校生、大学生らとともに施設を見学し、お互いの可能性について語り合ってきました。

それは、この施設は起業する人とその関係者だけのための施設かというところ、そんなことはありません。一階にはカフェ・レストランがあり、ここは一般の方でもご利用いただけます。(写真掲載)そして二階に



みや産業の歴史を知ることが出来ます。(写真掲載)

さらには会議室と宿泊施設も一般開放されており、予約することで利用可能です。せっかく県民の皆さまの大切な税金を投じて作った施設ですから、多くの方に利用していただきたいと思います。



はあいち創業者館があり、あいちの創業者・企業家の歩

とところで、私は、さわやからいふという会社は、スタートアップという言葉がまだ無かった時代に生まれ、立派なスタートアップ企業なのではないかと、ふと思ってしまうました。何故なら、介護保険制度が出来る前の段階で、創業者である白川代表が介護分野の

将来性を感じ取り起業、その後紆余曲折は有ったにせよ大きく成長して今に至っているからです。どのような分野でも、切り拓いていくのは大変、成功した形を真似るのは簡単なのです。しかし社会の発展は、切り拓いていく方がいるからこそ成し遂げられます。スタートアップは、愛知県だけでなく、今や世界中が力を入れています。そのお手本が身近なところにあることに喜びを感じます。

黒田太郎氏の略歴

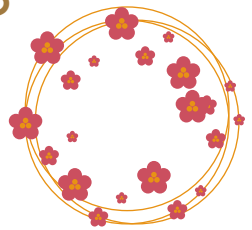
一九六七年一月 生まれ
一九九〇年四月 日本銀行入行
二〇〇二年七月 大塚耕平参議院議員秘書
二〇一五年四月 愛知県議会議員(千種区選挙区)



新しい年を迎えて

人生の方程式

我が人生を振り返りつつ



J A愛知厚生連海南病院 名誉院長 山本直人

令和7年の新しき年を迎え、皆様にご心よりお慶び申し上げますとともに、今年こそ世界の全ての方々に、平安、平和に溢れた年であるよう祈念申し上げます。

令和6年は元旦早々、能登半島大震災で日本列島に衝撃が走りましたが、約一年が過ぎさろうとするなか、被災地では復興にまだまだご苦労されている姿を拝見するにつけ、胸をしめつけられる想いで、今後とも支援の拡大を望むばかりです。未だ被災地で困難を極めてお見えになる方々に心よりお見舞い申し上げます。

そのほかにも、地球規模での課題では、世界各地での紛争や戦闘拡大という

創業された稲盛和夫氏が有名ですが、人生・仕事の結果

考え方×熱意×能力と示されています。熱意に関しては偉大なこともみんな一歩一歩の積み上げでしかできないのだから、誰にも負けない努力をしようという姿勢を述べられ、考え方については、人間にとつてあるいは世の中にとつて何が正しいのか？どのよう貢献できるのか？という考え方を座標軸に人生を歩んでこられたことはあまりにも有名かと存じます。ある時この姿勢に敬服し、私も目標としてきたところですが、そもそも医師として考え方をはじめたのは、ある人物の影響でした。

アルベルト・シュバイツァー（1875年1月14日～1965年9月4日）そのひと

でした。彼は、ドイツ出身で、音楽、哲学、神学を学んだのち、30歳の時、医療と伝道に生きることを決断し、単身アフリカの赤道直下の国ガボンのランバレネの地で、医療に生涯をささげられました。私は、このような活動をされて

いるシュバイツァー先生にたく驚きと共感を憶えしました。わずか21歳の時、大きな決断をして「30歳までは学問と芸術を身に付けることに専念し、30歳からは世のために尽くす」と決意され、医学を学び、アフリカ、ガボンを共和国のランバレネで実践して、医療に恵まれなかった多くの黒人達の支えとなられた。そして、その思想と実践の根底にあるものが、有名な「生命への畏敬」であります。

この生命への倫理性がおそらく私が医師を志し、その後の内面的な大きな行動規範のもととなったことはいまでも感謝するところでありま

しょう。私は、1979年名古屋大学医学部を卒業後、名古屋第二赤十字病院にて医師としての第一歩が始まりました。私の上司である脳神経外科部長先生は、ちょうどアメリカ留学から帰国され、ハーバード大学医学部 Massachusetts General Hospital (MGH)にて、脳

神経外科臨床の最先端を義務のなか学ばれてみえましたゆえ、名古屋第二赤十字病院・脳神経外科は、アメリカの雰囲気そのままに、まさに職場はMGHのスタイルで大変厳しいといえますが、まるで戦場に送られたごとく鮮烈な思い出があります。脳卒中センターの役割も果たしていましたから、救急症例も多く、ほとんど眠れぬ日々もありました。それに加え、連日の深夜まで及ぶ手術救急対応、病棟急変時対応、症例検討会と外国雑誌抄読会参加と発表当番が加わりました。今思えば、よく体が持ちこたえてくれたものと考えますが、学生時代に各種スポーツで培った体力が支えてくれたのでしよう。当時、厳しすぎるのではありませんが、様々な義務にしばられ、大げさな表現かもしれませんが、メンタルにもフィジカルにも極限まで鍛えられたことが、今になって思えば、現在の自己の強い精神力と集中力を養ってくれたのだと感謝するところです。過去の厳し

い教育を踏まえ、私自身も指導医として脳外科医のスタッフには、「心技体、いついかなる時や状況であつても脳外科医として、患者さんへ最高のパフォーマンスを発揮しなさい」とよく指導したものでした。数年間は臨床現場にて忙しい日々を過ごしていた頃、やがて大学に戻ることとなり、名古屋大学医学部脳神経外科にて過ごすこととなります。脳神経外科といつてもさらにいくつかの専門研究グループに分かれ、私は、脳下垂体外科の研究グループにての臨床と研究の日々がつづくこととなりました。頭の中の小さな視床下部・下垂体という部分が、体のすべての内分泌ホルモンをコントロールしており、脳の神秘性もそうですが、小さな臓器が人間の体のホルモンという物質をとおして、成長や代謝や免疫などなどをうまく調節していることに驚きと興味を憶えたものです。

名古屋大学医学部脳神経外科を離れ、一時、岐阜県関市の病院で脳神経外科を立ち上げ、軌

道にのつたころ後輩に運営管理をまかせ、つぎなる新天地、愛知県弥富市の海南病院に昭和63年7月に赴任することとなり、このような流れも自分自身が決めたというより、むしろ時の要請にこたえるかたちで決まってゆく経緯もあり、人生の微妙な機微を感じざるをえません。むしろ、私の医師人生は、縁により導かれ、偶然と必然で、その時々、その場所に存在したのだなあと、今振り返りかえって感慨深く思うところ。

道にのつたころ後輩に運営管理をまかせ、つぎなる新天地、愛知県弥富市の海南病院に昭和63年7月に赴任することとなり、このような流れも自分自身が決めたというより、むしろ時の要請にこたえるかたちで決まってゆく経緯もあり、人生の微妙な機微を感じざるをえません。むしろ、私の医師人生は、縁により導かれ、偶然と必然で、その時々、その場所に存在したのだなあと、今振り返りかえって感慨深く思うところ。

してくるのではないでしょう。か。たとえ現時点で、夢や目標がなくても、今を集中して生きることで、いつか近い未来で点と点がつながることがありうると教授は述べます。特記すべきことは、このためにキャリアを呼び込む5つの行動特性が大切となります。その5項目とは、

してくるのではないでしょう。か。たとえ現時点で、夢や目標がなくても、今を集中して生きることで、いつか近い未来で点と点がつながることがありうると教授は述べます。特記すべきことは、このためにキャリアを呼び込む5つの行動特性が大切となります。その5項目とは、

さて、わが人生を振り返った時、キャリアのさまざまな転換期があつたわけですが、その場面場面において、出来事やキーパーソンが決定要因であつたことに改めて気づきました。こうして振り返りますと、私のキャリアにとつて、自分で決めたことは、「脳神経外科医師になる」という事だけで、あとは、その時々々のキーパーソンとの出会いと多くの皆さまのサポートにて道を歩んできたこととなります。

さて、わが人生を振り返った時、キャリアのさまざまな転換期があつたわけですが、その場面場面において、出来事やキーパーソンが決定要因であつたことに改めて気づきました。こうして振り返りますと、私のキャリアにとつて、自分で決めたことは、「脳神経外科医師になる」という事だけで、あとは、その時々々のキーパーソンとの出会いと多くの皆さまのサポートにて道を歩んできたこととなります。



J A愛知厚生連
海南病院 名誉院長 山本 直人
略歴及び公職一覧

【略歴】
昭和五四年三月
名古屋大学医学部卒業
昭和五四年五月
名古屋第一赤十字病院
昭和六三年七月
愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院 病院長

【主要公職一覧】
平成三〇年五月現在
日本脳神経科学会専門医・指導医
名古屋大学医学部 臨床教授
日本病院会 理事
日本病院会 愛知県支部 副支部長
ほか

デイサービス

まほろば中川



クリスマス



2024年最後のイベントクリスマス会は多くの利用者さんに楽しんでいただきたくて2日間に渡り開催しました。サンタとトナカイの登場から始まりですが、おや？サンタがトナカイを引っ張っています。「何で？サンタが引いてるの」とみなさんの声に笑顔が広がりました。今回は各ゲームの上位3名にメダルが授与されます。クリスマスらしいゲーム3つで競います。ま

ずは『チキン掴み』です。作り物のチキン10本を制限時間内に箱に詰めるものです。箱が小さい為案外難しいです。「10本は無理だね」という声もありましたが、成功された強者がいました。次は『プレゼント投げ』、様々な大きさの箱を煙突に見立て並べます。小さな箱で作ったプレゼントを5つ煙突に投げ入れます。全部入った方は「運がよく入った」と、全部入らなかった方は「遠すぎて入らない」



と声が聞かれました。最後のゲームは『ツリースナイパー』です。得点が書かれた筒を並べ、4段に積み上げた的をボールを転がして倒すゲームです。ボールは一人2個ですが1個ですべて倒した利用者さんがいました。すべてのゲームが終了した後は、この日の為に練習してきた『クリスマスロック』をみんなで楽しく踊りました。そして表彰式です。メダル受賞者の方は満足げでした。一人で2つのメダルを獲得した方も「みんなには申し訳ないけど、孫に自慢ができる」と話されていました。最後はみんなでクリスマスケーキをいただきました。みなさんの笑顔がいつぱいのクリスマスパーティーになりました。一年を終えました。

ハロウィン

今年は2日間にわたりハロウィンパーティーを行いました。みんなで楽しむことを念頭にゲーム三昧のパーティーです。最初は全員で輪になり中央に置かれた3つ重ねたカボチャをお手玉で落とす『かぼちゃ落とし』から始まり『目玉すくい』『お化け射的』『キャンディージャンプ』を楽しんでいただき、最後はスタッフによるリアル間違い探しでしたが、すべて利用者さんに答えられてしまいました。おやつにはプリンとチョコレートを食べ終えて



楽しいパーティーが終わりました。白熱したゲームが繰り広げられました。ハロウィンメダルをゲットした利用者さんが「楽しかった」と喜ばれていました。

敬老の日



9月16日は敬老の日です。当日まほろばでは敬老会を行いました。まほろば利用者さんには90歳を超える方が7名いらっしゃり、みなさんには名前の前に並んでいただきました。そこで記念写真と感謝状をお渡ししました。みなさんに健康の秘訣をお聞きしたら「のんびりと過ごすこと」と言われる方が多く、共通した秘訣のようです。最後はおやつタイムで、のんびり紅白饅頭を食べて過ごしていただきました。



デイサービス

まほろば稲西



クリスマス会



一年最後のお楽しみクリスマス会、最初にスタッフの『クリスマス・ロック』のダンスから始まりました。事前に何度か練習をしていたため、利用者さんも一緒に踊ってくれて盛り上げて下さいました。『プレゼント運び』から始まりです。積み上げたプレゼントを落とさず紐をたぐり寄せるゲームです。積まれたプレゼントの箱がグラグラと揺れるので、みなさんとても慎重ですが、落としてしまうと「あー！」と声が漏れます。次は『棒サッカー』

です。赤組と白組に分かれ、サンタやツリーの形をした風船を棒を使ってゴールに入れます。白熱した戦いが繰り広げられボールが宙を舞って大騒ぎ！雪だるまのボールが割れるハプニングもありました。スタッフも大きな声で応援して盛り上げました。最後のゲームは『星探し』です。吊された紙袋の中に星が入っていて、棒で叩いて星を落とすゲームです。星にはシールが貼ってあり、シールの色によりプレゼントが異なります。「星を拾ってくださいー」の声に今度は一生懸命



星を拾い、シールの付いている星を取れなかった方に星を譲り合っている場面にはほっこりしました。最後にお楽しみのお楽しみみまきを食べ、団欒を楽しみました。落ち着いたところでお菓子を配りました。今年一年を笑顔で締めくくることができました。



紅葉狩り

11月の秋晴れで20度を超える暖かな日に散歩を兼ねて、まほろばの向かいにあ

る稲西公園へ紅葉狩りに出かけました。お出かけ日和ではあるものの、まだ紅葉には早かったようです。みなさんは外出に大変喜ばれていらっしやいました。その日は祝日で親子連れや小学生も見うけられました。そこでみなさんは黄色く

なった銀杏や松ぼっくりを拾い見せ合って、楽しくおしゃべりを楽しみました。「日陰はちよっと肌寒いけど、日向は暖かくていいね」と気持ちよさそうでした。最後は記念撮影に公園に来ていた小学生も飛び入り参加して、笑顔で良い写真が撮れました。



社交ダンス

鯉城学園の社交ダンスクラブの6名の方が来所されて



社交ダンスを披露していただきました。演目はワルツ・タンゴ・ルンバ・ジルバ・チャチャチャと5つのジャンルで楽しませて下さいました。途中のチャチャチャではスタッフが参加して、利用者さんから大きな拍手と笑いで盛り上がりました。ダンスの後は体操と南京玉すだれも披露して下さいました。南京玉すだれでは「あ、そおれ！」と合いの手と手拍子で場の一体感が生まれ大変盛り上がりました。みなさんの笑顔が溢れた一時でした。





新年のご挨拶

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
昨年から部署間の風通しが良くなり、さわやかならぬがどのような会社か理解して頂けたと感じます。
引き続きスタッフが力を発揮できるような環境を整えることが私の役割と考えています。
皆様の益々のご発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

令和七年

最高経営責任者 白川秀二



新年のご挨拶

お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年は穏やかな一年でしたが、組織としてうまく回るようになりました。お客様のため、相手のため、という想いが浸透してきたと感じます。
本年は個の力を成長させていきたいと考えています。
本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和七年

代表取締役社長 出口明美



どちらにもメディア

さわやからいふ通信編集 加藤裕之

昨年は選挙がクローズアップされた年でしたね。私たちが

が関与できる衆議院選挙や名古屋市長選挙もありましたが、他にも沢山の地方自治体の選挙がたくさんあったようです。

ただ、近隣でなければ地方自治体の選挙はメディアで見ることが殆どありません。全国的に取り上げられたのは東京都知事選と兵庫県知事選と名古屋市長選くらいですかね。

本来なら兵庫県知事選はメディアで拝見することはないはずでしたが、その選挙に至るまでの公益通報者問題で大変注目を浴びました。そして、これらの選挙が終わった後から耳にするようになった言葉が『オールドメディア』対『ニューメディア』という言葉

です。

『オールドメディア』とは大手新聞、雑誌やテレビなどを指し、『ニューメディア』とはインターネット上にあるX(旧ツイッター)やフェイスブック、YOU TUBEなどのネットメディアのことで

す。これらは特に兵庫県知事選や名古屋市長選においては『オールドメディア』対『ニューメディア』という対立軸を作って報道されてきました。それが顕著に表れたのが兵庫県知事選でした。選挙前まで圧倒的に不利であった候補者の元知事が圧倒的票差で勝ってしまったからです。

これは昨年の春先から兵庫県元知事の公益通報者問題を連日報道していて、正直私も

その報道に取り込まれてしまいました。ところが時間が経つにつれてこれは何かおかしいと感じるようになりました。相変わらずテレビや新聞では元知事が犯罪者かのように報道していました。これまでにニューメディアは嘘の情報が溢れていると言われていたが、その中には真実が隠れていましたし、光を放っていました。テレビでは選挙後の総括でニューメディアは嘘が溢れていて危険だといいい、テレビは事実確認、ファクトチェック、裏取りというのがあって放送していました。確かにネット上には嘘が溢れています。しかし真実も存在します。あたかもネットは嘘ばかりで、テレビは真実しか放送できないかのようにキャ

スターは真面目な顔で話していました。しかし、春先からの兵庫県元知事の公益通報者問題では裏取りなし、ファクトチェックもしていない情報を延々と真実のように流していたのです。今回多くの人は何故ネットの情報を信じたのか。それは音声であったり証拠が提示されていたからです。以前はテレビは高齢者が見て、ネットは若者が見ていると思



い込んでいたのがこの結果だと思えます。いみじくもテレビのインタビューで70代女性がテレビに疑問を持ちネット

で調べたらテレビで報道しない情報が見つかったと言っています。テレビは高齢者しか見ないと言われていたが、もう高齢者も見なくなったことに気づかなければいけない。それは情報が信じるに値しないと言ふことに気づいてしまった結果であろう。メディアは国民を洗脳しようとするのはそろそろやめないと、消滅していく運命の中にあることに気づいてほしい。

流行語大賞について考えてみようと思います。まず「本当にこの言葉流行したの」と聞きたくなる言葉が多かったように思います。

年間大賞の『ふてほど』はドラマは人気があったことは知っていましたが、大賞とるまでとは知らなかったです。私が流行に疎いだけなのかな。かつて流行語となった『いき飲み』を表す『イッキ！イッキ！』はコンプライアンス的にもつてのほかなのだそうです。

でも今回ベストテンに入った『裏金問題』は良いんですね。この裏金問題は何か問題かという点、当事者である政治家が何の問題もないと思っているとところが大きな問題だと思うのだが。政治家のレベルは国民のレベルと言ふことなの…？じゃあ仕方ないか(笑)

だ。



さわやかからいふ本社・中川事業所

- 訪問介護事業 2371000759
- 居宅介護支援事業 2371002177
- デイサービス事業 2371003019
- 介護教育事業 介護職員初任者研修
同行援護従業者養成研修

〒454-0024
 名古屋市中川区柳島町4丁目16番地
 TEL : 052-364-6001 FAX : 052-364-6005
 デイサービス「まほろば」
 TEL : 052-364-6007 FAX : 052-363-6027



中村事業所

- 住宅型有料老人ホーム
- デイサービス事業 2370503514

住宅型有料老人ホーム「さわやかの家 稲西」
 TEL : 052-414-7704
 デイサービス「まほろば稲西」
 TEL : 052-414-7335
 〒453-0849 名古屋市中村区稲西町90番地
 FAX : 052-414-7336

ウイズレント

- 福祉用具貸与
- 介護予防福祉用具貸与
- 特定福祉用具販売
- 特定介護予防福祉用具販売 2371003142
- 名古屋市介護保険
住宅改修費受領委任払 7681000058

〒454-0024 名古屋市中川区柳島町4丁目16番地
 TEL : 052-304-8008 FAX : 052-364-6005



みずほ事業所

- 訪問介護事業 2370800993
- 居宅介護支援事業 2370801231

〒467-0012
 名古屋市瑞穂区豊岡通1丁目25番地
 シャンポール近藤 1F
 TEL : 052-737-6565 FAX : 052-737-6567

さわやかからいふ スタッフ募集

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| ①登録ヘルパー | (パート) | [中川・みずほ事業所] |
| ②有料老人ホーム | (パート) | [中村事業所] |
| ③サービス提供責任者 | (パート) | [中川・みずほ事業所] |
| ④介護支援専門員 | (正社員) | [中川・みずほ事業所] |

採用サイト PC/スマホ
<https://sawayakalife-saiyo.jp>



電話でのお問い合わせは

0120-976-619 まで

<< 『介護職員初任者研修』 令和7年度は5月開講予定 >>

さわやかからいふホームページ
<https://sawayakalife.jp>



さわやかからいふフェイスブック
<https://www.facebook.com/sawayakalife>

